

グリーン四国

四国森林管理局



四国山の日

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1135 2014年10月号

「技術者育成研修四国ブロック」開催

市町村等への技術的支援を的確に実施する森林総合監理士を育成するため、「技術者育成研修」及び「実践研修」を行うこととして
【詳細は2頁】



技術者育成研修四国ブロックの参加者【下段中央：浅川局長】



開講式挨拶
井上業務管理官（次長）

林野庁では、平成二五年
度に従来の林業普及指導員
の資格試験を見直し、平成
二六年度から都道府県職員

以外の者であっても森林・
林業に係る技術支援等が円
滑に行うことができるよ
う、「森林総合監理士」と
して登録・公開する制度を
創設しました。

そのに合わせて平成二三年
度から三年間実施してきた
「准フォレストスター研修」
に代わり、平成二六年度よ
り「技術者育成研修（中央
研修及びブロック研修）」
及び「実践研修」が実施さ
れることとなりました。



森づくり構想実習

この研修では、森林・林
四国ブロック」及び「実践研修
ブロック」を実施する
また、実践研修では、森
象に、高知市内のホテルに

業に関する専門的
かつ高度な知識や
技術、現場経験を
有し、長期的・広
域的な視点から地
域の森林づくりの
全体像を示すこと
により、市町村等
への技術的支援を
的確に実施するこ
とのできる森林総合監理士
の育成を目的に行うことと
しています。

四国森林管理局では、森
林・技術支援センターを研
修拠点として位置づけ、管
内国有林のフィールドを活
用し、九月から一〇月にか
けて「技術者育成研修四国
ブロック」及び「実践研修
ブロック」が行われま
した。

こととしています。
技術者育成研修は、森づ
くりの理念や循環的な木材
生産の基礎的な知識・考え
方についての講義を中心
とした東京都内での中央研修
と、構想力を身に付けるた
めの実習・演習を中心とし
たブロック研修が行われま
した。

九月二九日～一〇月二日
までの間に実施した「技術
者育成研修四国ブロック」
は、中央研修を終えた研修
受講生一九名（県職員一四
名、国有林職員五名）を対
象に、高知市内のホテルに



森づくり構想実習：班別発表

て、現地を確認し検討を行う「資源循環利用構想演習」を行い、午後からは高知市の研修会場へ戻り、「一〇年間の森林経営ビジョンの策定」と翌日の

発表資料の作成を行いました。四日目となる研修最終日は、班毎に首長に対するプレゼンを想定した発表を行いました。活発な意見交換が行われました。

士としてのやりがいや困難さをお互いに理解し、森林総合監理士としてのやりがいや困難さをあわせて認識したようでした。なお、一〇月二七日〜二八日には「新たな架線系作業システムへの取組と最新の木材利用・流通」をテーマとした実践研修を行いました。

10年間の森林経営ビジョンの策定（発表）



において実施しました。研修の開講式では、井上業務管理官から激励の挨拶があり、早速、酒井外部講師による「森づくりの構想（目標林型と施業方法の選択）」の講義から始まりま

で「森づくり構想実習」として、目測による森林現況を数値で算出し目標林型等の検討や発表を行いました。三日目は、同じく中土佐町内にある新道山国有林外で、午前中は一〇〇〇ヘクタールの森林における一〇年間の事業計画について、



資源循環利用構想実習

エールの挨拶を頂き、最後に集合写真撮影し無事に研修が終了しました。四日間の研修カリキュラムでは実習・演習の時間に限りがあったものの、受講生は各課題に真剣に取り組み、森林総合監理

マとした実践研修を行いました。実践研修では、実際の事業現場において、事業を展開している外部講師からの講義を予定しており、受講生のレベルアップにつながるよう、関係者一同取り組む考えです。

『秋期緑の街頭募金』開催

〈技術普及課〉



一〇月一日に、恒例となりました「秋期緑の街頭募金」が、「緑の募金でふせごう地球温暖化」のスローガンのもと、公益社団法人高知県森と緑の会主催により、高知市中央公園及び帯屋町筋で行われ、浅川局長を初め多くの街頭募金協力者が参加しました。

特に今回は、子ども会連合会から、例年以上に多くの小学生が参加し、大きな声で募金を呼び掛け、森林の大切さや、この募金が森林づくり活かされていることなどを訴えました。

当日は大型台風が接近中でしたが、雨の心配はなく、アーケードの人通りは普段と変わらず、子どもから年配の方まで、多くの方々から募金への呼び掛けに応えていただき、たくさん善意が寄せられました。

この、「緑の募金」は一〇月三十一日まで行われており、いただいた募金は、水源の森づくりや緑の少年団の育成、国際緑化事業などに活用されることになっています。

出発式での挨拶【浅川局長】



街頭募金の様子



街頭募金参加者

各地のたより



りました。

児童は登山道沿いの樹木の名前や特徴、ニホンジカ

昨年度は滑床溪谷への登山

(以下シカ)の被害防止用

を実施し、今年度について

のネット設置の状況などの

は、全校児童で三本杭へ登

説明を聞きながら約二時間

山を行いたいとの依頼が

かけて三本杭の頂上を目指

あり、今回の森林教室とな

しました。



九月三〇日、愛媛県松野

町立松野東小学校全校児童

三五名が滑床山(三本杭)

に登山しました。

本校は、愛媛県教育委員

会の「森はともだち推進事

業」の指定校として、平成

二二から二四年度の二年間

に、森林環境学習に力を注

いでいきましたが、その後も

引き続きいて森林環境学

習を行いたい要望があり、



八面山で記念撮影

途中の八

面山で休憩

し、この山

頂が愛媛県

と高知県の

県境である

ことを説明

すると、驚

いていまし

た。

三本杭の

山頂には、

高学年の児

三本杭でニホンジカ食害等の説明

真を見せながら、

その後自然再生

のために、ミヤコ

ザサの移植や周

囲へのシカ被害

防止ネット設置

を行った結果、ミ

ヤコザサ等の植

生が回復したこ

とを説明しまし

た。実際に現地を

見ながら話を聞

いた児童達は、非

童が早く到着しましたが、常に驚いていました。

低学年の児童が到着するの 今回の登山で、森林等の

待つて、みんなで楽しくお 自然の良さや大切さ、また、

弁当を食べました。 人の手を加えることで自然

昼食後は、三本杭の名前 は回復すること等を学んで

の由来や、シカの食害に もらえたと思います。

よって裸山になっていた平

成一八年頃の山頂周辺の写





九月二六日に愛媛県松野町立松野西小学校で四年生二一名を対象に、また一月一〇日には、高知県宿毛市立小筑紫小学校で五年生二〇名を対象に、両校共に本年度三回目の森林教室「水の土壌浸透実験」をそれぞれ行いました。

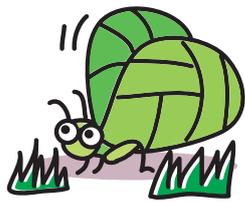
松野西小学校は、まず最初に、森林の大切な働きである、水を蓄える働きや山崩れを防ぐ働き等について、学習しました。(小筑紫小学校については、六月

二〇日の森林教室です。学習済みです。)

その後、「森林のある山」と「森林のない山」を再現した治山模型を使って、ジョウロで雨を降らせて、

森林の働きを実証しました。樹木や枯葉を通して出てくる水は、透明になってピーカーに溜まっていくのに対し、木も枯葉もない土がむき出しの模型からは、いつまでも濁った水が溢れるように流れる様子を目の当たりにした子どもたちは、「すごい！」と目を丸くして、二つのピーカーを見比べていました。

また、森林のある山は、木や落ち葉が雨で直接地面がたたかれるのを防いだり、土壌がスポンジのように雨を吸い込み、地表を流れないので崩れにくいのに対し、森林のない山は、雨が土を打ち、地表を流れるため土壌が流出し、さらに斜面や山裾に置かれた家の模型が倒れていく実験を見た児童からは、「木のない山には、家は建てられん」等の感想も聞かれ、森林の持つ土砂流出を防止する働きを十分理解したようでした。



「水の土壌浸透実験」

小筑紫小学校

松野西小学校



森林の土壌はすごい



九月二三日、徳島市の「とくしま植物園」において徳島市立沖洲児童館児童九名を対象に森林教室（森林散策）を行いました。

当日は、午後からの開催で天気も良く、絶好の野外活動日和となりました。開催場所である「とくしま植物園」は、徳島市が運営している施設で、整備が行き届いた庭園等を目にすることができます。

観察小道へ入ると、たくさんの樹木や草花等が観察



樹木の名前当てクイズ

できて、野外活動にはうってつけの場所です。最初に樹木の名前当てクイズを行い、徳島県の県木であるヤマモモや、名前の由来がおもしろいサルスベリ、縁起が良い木とされるユズリハなど、親しみやすい樹木を中心に児童達に答えてもらいました。難しい

と感じる児童もいたようですが、みんな熱心に考えてくれていました。その後、あらかじめ隠しておいた人工物を探し、カモフラージュというネイチャーゲームを行いました。集中力を高め、指しました。真剣に正解を導いていまし

た。おやつ休憩を挟み、元気が増した児童達と、今度は芝生の広場で動物や植物の生態を学んでもらうため、「コウモリとガ」と「種子模型作り」を行いました。

「コウモリとガ」というゲームでは、なぜ目が見えないコウモリが暗闇でさまざまな昆虫を捕らえることができるのか、「種子模型作り」では、植物が遠くまで種子を運び、子孫を残すよう進化を遂げたこと等を、体を使って体験して

もらいました。参加した児童からは「とにかくある動物園に来た時よりも楽しい」や「観察小道は坂がしんどかったけどまた来たい」という声があり、とてもうれしく思いました。

児童達には自然に触れることの大切さや、住んでいる身近な地域にもたくさん自然が残っていることを実感してもらえたと思います。地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも森林環境教育を実施していきたいと考えています。



コウモリとガ（ネイチャーゲーム）



一〇月四日、徳島県と高知県の境、白髪分岐の南東に位置する別府山五五林班イ小班内において、「三嶺の森をまもるみんなの会」の協力を得て、ボランティアによるシカ被害防止対策を実施しました。

開会式（奥物部ふれあいセンター）では田村署長から、平成一九年度以降、本年までに二〇回の活動に協力いただいた、「三嶺の森をまもるみんなの会」と、ボランティア活動に参加

していただいた、総勢約二八〇〇名の方々に對してお礼と感謝を伝えるとともに、三嶺周辺におけるニホンジカ（以下シカ）食害が年々改善されつつある現状と、今後の食害防止対策に對する協力要請の挨拶がありました。

今回は、平成二五年度の



開会式での田村署長の挨拶

ボランティア活動において、白髪山（標高一、七七〇m）西側稜線部に設置したシカ捕獲補助柵に一定の成果が見られたことを踏まえ、今後のシカ捕獲をより一層効率よく実施するために、シカ捕獲補助柵（ネット）を設置するとともに既設防護柵の補修を行ったものです。

当日は、高知県、香美市・南国市の職員、JA土佐香美職員、大学生、高校生等幅広い分野の一般参加者に加え、局署から一一名の職員の参加を得るなど、総勢七五名（五班編成）の方々に協力をいただきました。

現地は、台風一七号の影響を受けて、濃霧や風が強

くなり、時折しぐれるなど、肌寒い厳しい気象条件での作業となりましたが、森林技術指導官の適切な指導と、各班のリーダー等のサポートにより段取りよく作業を行い、予定どおり終了することができました。

今回のボランティア活動においては、白髪避難小屋周辺のササが香美市及び猟友会による捕獲の効果により回復しつつあることを、参加者全員が確認できたものと考えています。

今後においても、「三嶺の森

をまもるみんなの会」と緊密に連携し、ボランティア活動を通じ、多くの人に三嶺周辺におけるシカ食害の現状等を知っていただくとともに、各関係機関等の意見を聞きながら、三嶺周辺のシカによる被害防止と植生回復等自然環境の維持に取り組んでいく考えです。



シカ防護柵の補修